



藤原 光一（ふじはら こういち）
昭和39年8月22日生。高校卒業後、
（株）伊藤園に就職。その後、義兄の会社に
就職後、不動産業として独立。

中部日本ミャンマー文化経済友好協会 藤原光一理事長に聞く

日本とミャンマーの交流を深め 優秀な人材の活躍の場を与えたい

二〇一五年十一月の民政復帰後初の総選挙でアウン・サン・スーチー氏率いる国民民主同盟（NLD）が圧勝し、一六年三月、スーチー氏が国家最高顧問に就任したミャンマー。その後、ロヒンギャ問題で多くの難民が国境を越え国際問題となっているが、日本と同国の交流を図ろうと一七年六月、一般社団法人中部日本ミャンマー文化経済友好協会（愛知県一宮市千秋町佐野）が発足した。藤原光一理事長に話を聞いた。

——ミャンマーに行くようになったきっかけは？

藤原 高校卒業後、伊藤園に勤め、さらに義兄の会社などに勤めた後、不動産業を始め車のディーラーも経営し現在に至っています。が、六年前からミャンマーで仕事している後輩の影響で三年半前から同国へ行くようになりました。

——ミャンマーの魅力は？

藤原 日本の東京外語大や東京工業大にあたるヤンゴン外大やヤンゴン工大の学生はN1、N2で日本語も堪能で優秀です。その上、素直で仏教国で仏教がしっかり浸透しているので、将来性や大きなエネルギーを感じさせます。多くの優秀な人材が日本で働き、帰国してから起業するといったお手伝いが出来れば、と思っています。